

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	環境工学 1	
科目基礎情報							
科目番号	0053			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建設コース			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	PEL環境工学, 山崎慎一ら, 実教出版						
担当教員	大田 直友						
到達目標							
1.地球環境問題への国際的な取り組みや日本の環境政策を理解し, 説明できる 2.水質汚濁や廃棄物など, 生活環境の現状と対策を理解し, 説明できる 3.自然環境の保全と評価法を理解し, 説明できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	地球環境問題への国際的な取り組みや日本の環境政策を理解し, 詳細に説明できる			地球環境問題への国際的な取り組みや日本の環境政策を理解し, 説明できる		地球環境問題への国際的な取り組みや日本の環境政策を理解し, 説明できない	
評価項目2	水質汚濁や廃棄物など, 生活環境の現状と対策を理解し, 詳細に説明できる			水質汚濁や廃棄物など, 生活環境の現状と対策を理解し, 説明できる		水質汚濁や廃棄物など, 生活環境の現状と対策を理解し, 説明できない	
評価項目3	自然環境の保全と評価法を理解し, 詳細に説明できる			自然環境の保全と評価法を理解し, 説明できる		自然環境の保全と評価法を理解し, 説明できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	地球と人類の歴史, 地球環境問題と国際的な取り組み, エネルギー問題と持続可能な社会, 公害問題と環境政策, 水質汚濁と富栄養化, 廃棄物の処理とリサイクル, 生態系と生物多様性の保全, 環境アセスメントとミチゲーションについて学ぶ.						
授業の進め方・方法	環境問題は日々進行しており、状況も変化している。普段から新聞、ニュース等から継続的に情報を収集する習慣をつけて欲しい。授業時間30時間+自学自習時間60時間						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	地球と人類の歴史		地球の成り立ちを説明できる		
		2週	地球と人類の歴史		地球の成り立ちを説明できる		
		3週	地球環境問題と国際的な取り組み		地球環境問題を説明できる		
		4週	地球環境問題と国際的な取り組み		地球環境問題を説明できる		
		5週	エネルギー問題と持続可能な社会		持続可能な社会をめざす国内外の取り組みを説明できる		
		6週	公害問題と環境政策		公害と環境政策を説明できる		
		7週	中間試験				
		8週	水質汚濁と富栄養化		水質汚濁と富栄養化を説明できる		
	4thQ	9週	水質汚濁と富栄養化		水質汚濁と富栄養化を説明できる		
		10週	廃棄物の処理とリサイクル		廃棄物の処理とリサイクルの仕組みを説明できる		
		11週	廃棄物の処理とリサイクル		廃棄物の処理とリサイクルの仕組みを説明できる		
		12週	生態系と生物多様性の保全		生態系と生物多様性の保全を説明できる		
		13週	生態系と生物多様性の保全		生態系と生物多様性の保全を説明できる		
		14週	環境アセスメントとミチゲーション		環境アセスメントとミチゲーションを説明できる		
		15週	環境アセスメントとミチゲーション		環境アセスメントとミチゲーションを説明できる		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野	環境	地球規模の環境問題を説明できる。		4	後6
				環境と人の健康との関わりを説明できる。		4	
				過去に生じた公害の歴史とその内容(環境要因と疾病の関係)について、説明できる。		4	後6
				水の物性、水の循環を説明できる。		4	後6
				水質指標を説明できる。		4	
				水質汚濁の現状を説明できる。		4	
				水域生態系と水質変換過程(自浄作用、富栄養化、生物濃縮等)について、説明できる。		4	
				物質循環と微生物の関係を説明できる。		4	
				廃棄物の発生源と現状について、説明できる。		4	
				廃棄物の収集・処理・処分について、説明できる。		4	
				廃棄物の減量化・再資源化について、説明できる。		4	
				廃棄物対策(施策、法規等)を説明できる。		4	
				環境影響評価の目的を説明できる。		4	
				環境影響評価の現状(事例など)を説明できる。		4	

				環境影響指標を説明できる。	4	
				ライフサイクルアセスメントを説明できる。	4	
				生物多様性の現状と危機について、説明できる。	4	
				生態系の保全手法を説明できる。	4	
				生態系や生物多様性を守るための施策を説明できる。	4	
				物質循環と微生物の関係を説明できる。	4	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	30	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	40	0	0	30	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0